

## 特集

## 身体知のリベラルアーツ

看護教育の危機の時代、なぜ今、「身体知」か 西山悦子

身体知の構造 身体で学ぶということ 大橋容一郎

「身体の教養教育」改革 鈴木 守

看護学生の「身体知」が変わるとき 菊池麻由美

新たな「身体」モデルに向けて 山本敦久

## 【連載】

だから私はこう書いた 系著者のフィロソフィー・4

山勢博章／津村紀子

グループワークの「達人」への道・6 三浦真琴

東西南北！ 学生募集旅日誌・6 高塚由香里

考える力を育てるシンキングツールの活用・9 黒上晴夫

笑いの伝道師 W マコトのコミュニケーション革命！・12(最終回)

W マコト

宮子あずさのエキサイティング Writing・24(最終回) 宮子あずさ

“医療安全力”を育むリスクアセスメントトレーニング・32(最終回)

斉藤奈緒美／石川雅彦

## 編集後記

●前回弊誌で模擬患者活用に関する特集を組んだのは、2011年の7、8号でした。実はそのときの編集後記にも書いたのですが、看護の学会での「模擬患者を活用した」という発表での模擬患者が学生であるという傾向は非常に高い。これは今も変わっていません。しかし、考えてみてください。病気を怪我の経験者ならともかく、いまだ看護も学んでいる最中の学生に模擬患者の役割がこなせるものでしょうか。対談で有馬先生が言われているように、学生任せでは「妙に聞き分けのいい患者」「不満も言わず我慢強い患者」ができあがるだけではないでしょうか。これでは看護師役の学生への教育効果は期待できません。●経験を積んだ教員に患者役が必ず学生を活用する場合には、教員がするとき以上に環境を含めた演出に気を遣い、役を演じる姿勢を育みながら行っていただきたいと思います。

……大野  
●皆さん苦手と言いますが、私もやはり苦手です。そう、立食パーティです。料理もお酒も手をつけず、あの先生とお話したい！ と思い、様子を伺い、よし今だ、と向かい始めた途端、仲の良さそうな別の先生が笑顔で登場されお話を開始されると、ああ、楽しそうだ、入れない、もう少し待機だ、と、くるり。あ、あの先生に話そう、そしてくる、またくるり、「それでは宴もたけなわでは」となってしまう。●看護職でもなければ、編集としても新参者なので、仕方ない面はあると思いますが、うまくなってからステージに上がろうとしていたら、永遠にステージには上がりません(ラモーンズ)。コッパをパーティ慣れしてそうな友人に尋ねると、パーティなんだから、皿一杯に料理を盛って、モリモリ食べて、これ美味しいですよ、と笑顔で話しかければよいとのこと。そんな人いますかね？ 実行できる気がしませんが、確かに彼は立食パーティが得意そうだ、とも思いました。

……番匠

◎編集室ツイッター

<http://twitter.com/KANGOKYOIKU>

看護教育 第57巻 第11号 2016年11月25日発行(毎月1回25日発行)

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2016, Printed in Japan

(1部) 定価：本体1,500円＋税

2016年・年間購読料(増大号を含む12冊)：冊子版15,540円、冊子＋電子版／個人18,540円、電子版／個人15,540円(いずれも＋税、送料弊社負担)

発行：株式会社医学書院 代表者：金原 優 〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 販売部 TEL：03-3817-5659

『看護教育』編集室 TEL：03-3817-5776 メールアドレス：kankyou@igaku-shoin.co.jp 担当：番匠・大野・早田

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

本誌を無断で複製する行為(複写、スキャン、デジタルデータ化など)は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学、病院、診療所、企業などにおいて、業務上使用する目的(診療、研究活動を含む)で上記の行為を行うことは、その使用範囲が内部的であっても、私的使用には該当せず、違法です。また私的使用に該当する場合であっても、代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。

## JCOPY 出版者著作権管理機構 委託出版物

本誌の無断複製は著作権法上の例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(電話03-3513-6969、FAX03-3513-6979、info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。0047-1895/16/紙：¥500/電子：¥750/論文/JCOPYが本誌の頁表記に並んで記されているのは、1論文1回複製につき紙は500円、電子版は750円を要することを明示したものです。表示のない論文などにも適用されます。JCOPY宛にご連絡いただく際には、筆頭著者名と併せて本表示をご提供くださるようお願いいたします。

『看護教育』は、株式会社医学書院の登録商標です。

Vol.57 No.10

2016 年 10 月

特集

## 「病態関連図」をおもしろく！

病態関連図を学生さんたちはしっかり書いているのでしょうか？そして、「おもしろく」書いているのでしょうか？

患者さんに関する情報の関連を示した図である病態関連図は、入手した情報を整理し、これから看護する患者さんの全体像を把握するのにとても便利なものです。特に初めての実習において看護過程を展開するのに役立つため、多くの学校で取り入れられています。ただそんななか、「病態関連図は苦手！」という学生の声は珍しくありません。

本来「図」というものは、なんらかの情報を得て、それをまとめるのに、文字だけを書き連ねるよりも、その情報どうしがいかに有機的に結びついているかの理解を助けてくれるものなので、わかりやすいはず。それが苦手とされるには、なんらかの理由があるはず。

今回の特集では、本来学生のためになるはずの病態関連図作成が好まれないわけと、その解決法を探り、図の作成や読み解きが楽しくなるような指導法を模索します。さらには、「病態関連」にこだわらず、他の形式での図作成にトライするという選択肢も提案します。いずれにしろ、学生がそこに「おもしろさ」を見出してくれさえすれば、患者さんの理解はよりいっそう進むことと思います。

■病態関連図の「おもしろさ」と「大切さ」を伝える！……………藤井徹也

■グループワークによる病態関連図の学習——看護基礎教育での演習の展開……………矢富見子／川本祐子／井上智子

■看護実践力につながる思考を育てるための試み——学生が自由な発想で看護を見つけられるよう「病態関連図」を変えてみる……………波多野文子／高東ひとみ／佐藤真紀

■【座談会】病態関連図をおもしろく書くためにできること……………藤井徹也／関原末沙央／文倉志信／須崎美穂



Vol.57 No.9

2016 年 9 月

特集

## さあ、臨床判断モデル

本誌 56 巻 7 号「看護過程再考」にて、タナー氏が構築した、臨床現場で看護師がどのように考えているかを表した、「臨床判断モデル」をはじめ紹介しました。

多くの先生から、確かに実践者はこのように考えているという反響をいただいた一方で、これはエキスパートの思考であり、基礎教育に取り入れるのは難しいとの反応もありました。

しかし、実際に、米国オレゴン州においては、このモデルのもと、声かけや事例設定などの日々の教育から、カリキュラム全体の構築、教育施設としての病院との連携など、大きな教育改革が実現しました。結果、卒業時に確かに臨床判断力が向上した、というデータが出ています。

日本でも、「臨床判断モデル」を導入することにより、基礎教育の段階から、学生が実践的に考える訓練を積むことがいっそう可能となります。学生の実践力向上のため、ぜひこの特集が、皆さんの基礎教育変革の手助けとなることを願っています。

■クリスティーン・タナー先生講演録より——臨床判断モデルの概要と、その活用について……………監訳：松谷美和子

■臨床判断モデルを基礎看護教育で用いるアイデアとシステム……………三浦友理子

■臨床判断力開発のための「思考発話」……………池田葉子

■「臨床判断モデル」に基づいた学習内容と評価について——コンセプトを基盤にした学習 (Concept-based learning activities) とラサター臨床判断ルーブリック評価 (Lasater Clinical Judgment Rubric) ……喜吉テオ紘子／Ann Nielsen／Kathie Lasater

■オレゴン看護教育コンソーシアム (OCNE) とコンピテンシーを基盤としたカリキュラムの構築……………奥裕美



【2016 年 8 月号 (Vol.57 No.8)】

論理的に書こう！

【2016 年 7 月号 (Vol.57 No.7)】

論理的に話そう！

【2016 年 6 月号 (Vol.57 No.6)】

看護過程再再考

【2016 年 5 月号 (Vol.57 No.5)】

「気持ちのいい」ケアを  
教えよう！

【2016 年 4 月号 (Vol.57 No.4)】

あなたの「見方」に現象学を

【2016 年 3 月号 (Vol.57 No.3)】

カリキュラムを  
「拡張」しよう！

バックナンバーのご注文・在庫照会について

- 2014 年 9 月号 (Vol. 55, No. 9) 以前の号は、東亜ブック (TEL.03-5947-4781, FAX 03-3923-4539, <http://www.taobook.com/>)
- 2014 年 10 月号 (Vol. 55, No.10) 以降の号は、医学書院販売部 (TEL.03-3817-5659) にお願います。